

他科の先生に
知って欲しい

豆知識・・・精神科編⑤

統合失調症の切り札「クロザピン」を安全かつ十分に届けるために

岡山県精神科医療センター 医療技術課長 矢田 勇 慈



■クロザピンの適応患者さんは？

統合失調症治療の基本はドパミン拮抗薬による薬物療法が中心です。しかし、約3割の方は主治医の勧める薬をきちんと飲み続けていても幻覚や妄想が取り切れずに長期入院となったり、家族の献身的な犠牲を払って自宅療養を余儀なくされたりしています。このような難治性の病態を「治療抵抗性統合失調症」といい、クロザピン以外に有効な薬物エビデンスはありません。平成23年の厚生省調査では、我が国には入院外来合わせて推計71.3万人の統合失調症患者がいると報告されており、その3割に当たる約21.4万人がクロザピンの適応者といわれています。

■全国の使用状況は？

我が国では2009年（海外よりも20年程遅れた）よりクロザピンが使用可能となり、全国475医療機関7,223人（2018年7月末日現在）の方がこの治療を受け、地域生活の光明となってきました。ただし導入割合は $7,223 \div 214,000 \times 100 \approx 3.4\%$ 程度であり、ほとんど適応患者さんの元に届いていないという深刻な現状にあります。

■諸刃の剣である…

一部で無顆粒球症や心筋炎、糖尿病性ケトアシドーシスといった精神科だけでは対応しきれない重篤な副作用が発生する可能性があります。開始時には当センターのような登録施設（岡山県内に12施設）において投与開始後18週間は入院管理をすること、週1回採血検査を行うこと、必要に応じて内科や救急科と連携して副作用対応をすることなど、安全確保のための厳格な制約があるため、精神科医にとって導入を躊躇するジレンマとなっています。

■それでも患者中心の医療を追求する

日本の統合失調症圏入院患者数は17.4万人と全科傷病中で最も多く、世界的にも突出して多いことが倫理的にも医療経済的にも問題視されています。この薬をきちんと使いこなせるのか、我々精神科医療のあり方が問われています。

岡山県では平成26年度より「岡山県難治性精神疾患地域連携体制整備事業」というネットワーク事業を通じて、精神科同士および身体科も交えた連絡会・研究会を毎年行い、かかりつけ医と協働しながらどの地域にお住まいの患者さんでもこの薬の恩恵を安全に享受できるような体制を目指しています。

本疾患に根治療法はありませんが、適切なりハビリテーションによりレジリエンスを高め、「生き生きした生活」を取り戻してもらうための医療を追求していきたいと考えています。

※患者さんのご紹介など、詳しくは当院ホームページをご参照下さい。

<http://www.popmc.jp/>